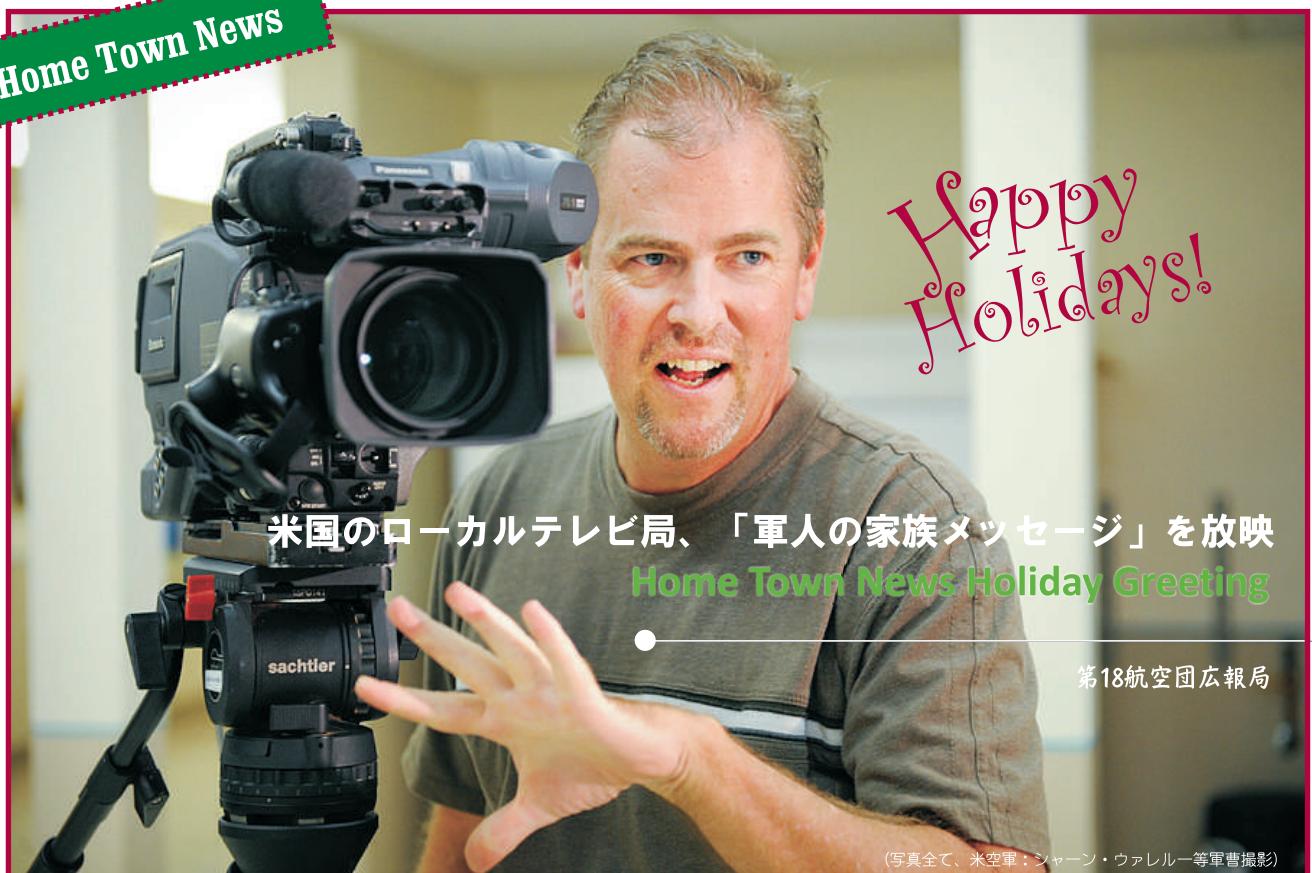


**Home Town News**

何気なくテレビを見ている時に、遠く離れて住む家族が突然テレビの画面に現れメッセージを送ったらきっと驚きと嬉しさで一杯になり、その上、周りの人々に「あなたの息子・娘・兄弟・姉妹をテレビで見たよ」と声をかけられたら、きっと心温まる喜びを感じることでしょう。

テキサス州サンアントニオに本拠地を置くテレビ局、ホームタウンニュースのホリディ・グリーティングチームが年末年始の挨拶をビデオ撮影するため嘉手納基地へやってきました。撮影班は、沖縄に勤務する軍人・軍属が故郷アメリカ本国に遠く離れて住む家族や親戚、友人に伝えたいメッセージを録画します。10月1日、2日の両日嘉手納基地内のゴルフ場にあるクラブハウスでビデオ撮影が行なわれました。これは希望者を募って行なわれ、参加する軍人・軍属の家族は皆ビッグスマイルでカメラに向かい語りかけます。

撮影班は世界各国にある米軍基地を毎年訪れ撮影をしており、昨年は約9200件の家族メッセージを撮影したということです。このビデオメッセージは各国で撮影された後、サンアントニオで24時間週7日態勢で編集され、撮影に参加した軍人・軍属の出身地のテレビ局へ配信されます。各ローカルテレビ局はこのメッセージを年末年始に番組のコマーシャルの時間帯を使って放送していきます。

多くのローカルテレビ局は、その地域に住んでいる軍人・軍属の家族に放送前に連絡を入れ放送日時を伝えてあげているようですが、事前に連絡をするだけでなく、放送後も放送されたビデオのリンクを添付したEメールを家族に送ってあげたりとアフターケアも充実しているローカル局もあるようです。

年末年始に愛する家族と一緒に過ごせない代わりにビデオで元気な姿とともに送るメッセージは、手書きのカード以上に遠く離れている家族を繋ぐ素敵なおみやげになっています。





# Sweet Salute!

・ あま～い敬礼

「あま～い敬礼」とは何ぞや。これは今年の手作りクッキー焼き大作戦のタイトルで造語です。



感謝祭が終わるとクリスマスはもう目の前。このころアメリカの家庭ではよく手作りケーキやクッキーを焼きます。転勤の多い軍人たちは、特に単身赴任者や独身の人たちにとって、焼きたてクッキーの香りは遠く故郷にいる家族を思い起こさせます。嘉手納基地では部隊幹部の奥様たちが主催して、手作りクッキーを寮に住んでいる軍人たちにプレゼントするという活動があります。今年は11月15日から17日の間、基地内の大型キッチンでおよそ1万枚を焼きあげました。一日30名から40名のボランティアが入れ替わり立ち替わり来ては、クッキーの生地をこねる、型どる、飾る、焼く、袋詰めするなど等、てきぱきと動きました。11月16日、専門学校日経ビジネス工学院の学生さん12名が参加し、アメリカのご夫人方とともに作業を手伝ってくれました。クッキーを焼きながらの英語のヒアリング、スピーキングはどうだったでしょう

うか。この日、およそ2時間でおよそ2500枚のクッキーが焼きあがりました。ボランティアのスワイートな気持ちのこもったクッキーの包み、故郷を離れて寮生活する軍人一人ひとりに手渡しで配られます。敬礼！とともに。

第18航空団広報局



(写真全て、米空軍二等軍曹撮影)  
（写真：ダニエル・ケネディ）



2010年度  
スコシ・ウォーリア

## COMBAT CHALLENGE SKOSHI WARRIOR

第18航空団広報局

嘉手納基地では今年も、「スコシ・ウォーリア」と呼ばれる、軍人を親として持つ子供達の為のイベントが開催されました。

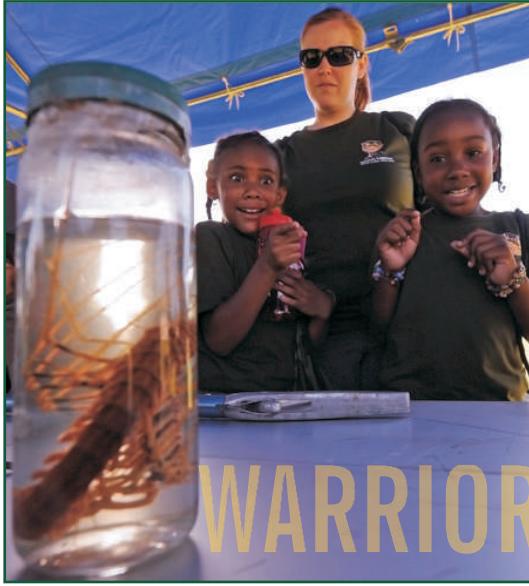
「スコシ・ウォーリア」とは、世界各地へ派遣される軍人が、一体どの様なプロセスを経て各地へ派遣されるのかを、子供達が分かりやすく体験できるイベントになっています。今年はおよそ200名の子供達と、65名のボランティアが参加し、嘉手納基地内のメリック・パークで開催されました。第18航空団副司令官のラップ大佐もイベントに参加し、会場では多くの子供達と話をしていました。子供達はそれぞれ、ペイントボールを投げたり、消防団の隊員から業務について話を聞いたり、又、憲兵中隊からは、走行車用のスピード計測器について説明を受けた他、施設中隊からは様々な



SKOSHI

示物が提供され、各自それぞれの親の仕事について、少しだけ触れる事が出来たようです。イベントの主催者であるウィッテンさんは、「このイベントは空軍だけのものでなく、沖縄における4軍全ての軍人の子供達が参加しています。このイベントを通じて、子供達が少しでも、軍人である親がどの様な手続きを経て遠方へ派遣されるのかを体験、そして理解できる事を願っています。」と話してくれました。第390情報中隊から参加したシャープ曹長は、「昨年度は、私たち夫婦が派遣された経験もあり、息子に、このプログラムを通じて私たちがどの様な手続きや書類のやり取りを経て派遣されるのかを、良く見ておく様にと話しました。子供達がこのようなプログラムを体験出来るのは、大変素晴らしい事だと思います。」と話し、子供達がこの「スコシ・ウォーリア」を通じて大変多くの事を学んだと話してくれました。

(写真全て、米空軍：ジェイソン・レイクー等軍曹撮影)



## 日本人従業員・永年勤続者表彰式 －8000年に及ぶ永年勤続年数を表彰－



2010年10月25日、宜野湾市にあるラグナガーデンホテルにおいて、在沖米軍基地で働く約600名の日本人従業員が、永年勤続者として表彰されました。表彰された方々の勤続年数を総計すると、およそ8000年に達します。その中には、嘉手納基地で働く日本人従業員即ちMLC (Master Labor Contract—基本労務契約) IHA (Indirect Hire Agreement—諸機関労務協約) 従業員も含まれます。毎年、長年に及ぶ功労を称え、勤続年数が10年、20年、30年そして40年を迎える従業員がこの永年勤続者表彰式で表彰されています。例年、表彰式には在沖米空軍、陸軍、海軍、海兵隊より司令官または代表者が出席しています。今回の表彰式に出席した第18航空団司令官ケン・ウィルズバック准将は「表彰されたあ一人あ一人が、戦略的に重要な沖縄そして太平洋の安定と日米同盟に大きな貢献をされています。我々からの感謝とお祝いの言葉をお贈りします」と挨拶しました。さらに、ウィルズバック准将は、地元沖縄の従業員が様々な分野、及び職種で働いており、その功労がアジア太平洋地域の安全にとって不可欠な役割を果していると述べました。

## 外務省沖縄事務所主催「沖縄理解増進セミナー」、嘉手納基地内で開催



外務省沖縄事務所の主催による「沖縄理解増進セミナー」が、12月2日に嘉手納基地内で行われました。約100名の空軍兵が参加し、沖縄の歴史 文化の説明を受け、古武道の演武を見学しました。セミナーの第1部では、歴史専門家の仲本和彦氏が、琉球王国時代、沖縄戦、戦後の米軍基地と沖縄県民との関わり合いなどを、スライド写真や動画を見せながら紹介しました。第2部では、沖縄伝統古武道保存会総本部（文武館）の仲本政博会長が、同会からの弟子2人と共に、武術用の武器を使いながら古武道を実演しました。その後、空軍兵も参加し古武道の体験をしました。嘉手納基地におけるこのような外務省主催のセミナーは、昨年12月に行なわれた同様のイベントに引き続き2回目の研修会となりました。